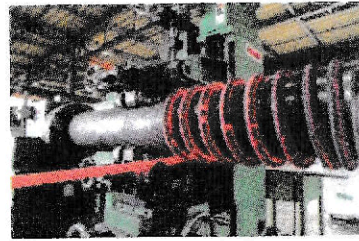


モノづくりを考える! 第49回

私たちは日本のモノづくりを信じています。日本のモノづくりの明日を築いていきます。



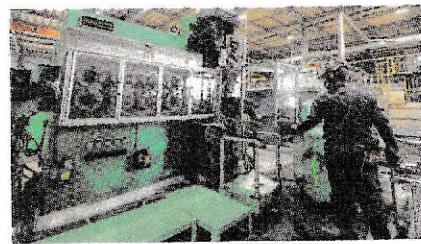
熱間成形機

大阪バネ工業株式会社

本社：東大阪市高井田西3-3-1
三重工場：伊賀市治田字北福澤3547-12

世の中にはいろんなバネがある。当社は産業用の大型コイルバネをもとにバネの精度が要求されるバルブや安全弁を得意としてきた。高温(900℃)の炉で加工する熱間成形の技術と設備【写真】で生産している。1933年の創業から車用の懸架(路面からの衝撃や振動を緩和する)装置に用いる板バネを生産して、人力車のクッションにも採用されていた。時代がくだって1960年代の高度成長期、自動車

が普及して部品の軽量化が求められるなかで1970年、コイルバネに転換した。1990年代末に国内での自動車補修部品の売上がピークの4分の1に減少し、新たな事業分野を模索するうちに、日本製中古車の補修部品輸出を



三重工場の冷間成形機

2003~2004年に開始した。日本製中古車の輸出先は過酷な自然環境であり、その使用環境に適したバネを製造した。海外ブランドOBKを各国で確立して商社経由で回収リスクを回避した結果、世界40か国で販売実績ができた。現在の生産品目は自動車コイルバネ(輸出50%・国内25%)、産業用が25%である。事業拡張の歩みを振り返る。1941年、業務拡張のため布施市高井田に新設移転。1963年、2代目社長に笠井潔氏が就任し、1980年代に第2・第3工場増設、本社工場増改築、1990~2000年代に第4工場増設、資材センター・物流センター設置、最高品質の磁気粉体塗装ラインを備えた工場新設へと拡張した。2009年、3代目社長に笠井洋子氏が就任。熱間成形で得ていた高い評価に加えて、さらに高精度で複雑な形状のバネを製造できる冷間成形(常温での加工)に必要な設備【写真】投資することを決断して2021年、三重県伊賀市に工場を新設、移転した。その挨拶状に「当社ならではの熱間とのハイブリットな成形も可能となりました」と記されている。あわせて資材、物流、塗装、製造から出荷機能をすべて三重工場に集約した。